

第223回地質調査所研究発表会講演要旨*

特集 惑星とリモートセンシング

国産ロケットを用いた人工衛星打ち上げやスペースシャトルの日本人クルー、そして月や火星への惑星探査計画など、わが国の宇宙開発もいよいよ本格的な段階にはいった。

地質調査所でも、地球について得たこれまでの研究実績を活かして、近い将来にわが国の宇宙探査船がもたらす惑星・衛星の地質学的データを取り扱っていききたい。

ここでは、惑星・衛星の地質学研究の手法とこれまで得られた結果、そして現在の日本の宇宙計画と今後の展望などについて考え、プログラムを紹介する。

日本の惑星探査計画の現状と将来

水谷 仁

1990年代以降わが国で行われる惑星探査として火星探査計画、PLANET-B、と月探査計画、LUNAR-A、がある。この既定計画に引き続く将来のいくつかの惑星探査計画についても紹介する。

(文部省宇宙科学研究所惑星研究系)

同位体から見た太陽系年代史

平田岳史

太陽系内の物質が経てきた複雑な物理化学的進化過程は、元素同位体によって絶対的なタイムスケールが打たれた。本講演では、隕石中の元素同位体が示す太陽系内および太陽系外物質の進化過程・年代史について触れる。

(地殻化学部)

宇宙資源—地球外惑星における水の存在とその意義

田中 剛

人類が宇宙に乗り出すとき、最も重要な資源の一つは地球にありふれた水である。月・惑星の水についてどこまで知られているのか、どこに存在の可能性があるのかを述べる。

(名古屋大学理学部)

リモートセンシングによる惑星地質学

中野 司

惑星地質学では地球について得られた知識を応用して、金星や火星、月やイオ(木星の衛星)などの地質現象を解明する。米国の惑星・衛星探査船によってもたらされた画像などのリモートセンシングデータを用いた研究を紹介する。

(地質情報センター)

地球と惑星のリモートセンシング

山口 靖

リモートセンシングは、地球や惑星表面の地形や組成の情報を与えてくれる。地質調査所では従来、地球の資源探査を主目的としてリモートセンシングに係わってきたが、今後は惑星探査にもこの経験を生かしてゆきたい。

(国際協力室)

* 平成5年6月16日 東京、石垣記念ホールにおいて開催
主催 工業技術院地質調査所、(財)日本産業技術振興協会